

短歌

末武 有二 選

大地震から七年の春待ち望む新庁舎の全貌見
え来る 安永 守住 孝子

旨かだご作る叔母逝き幾とせか市だご買いて
偲び食べおり 惣領 島田 廣子

清書して達成感に浸りつつ見上げる空に雲一
つなく 広崎 大原 郁

気にかかる桜の便り今年こそマスク外して乾
杯しよう 宮園 秋月 充博

賑やかに話を重ね人歩く温もり残る春の夜道
は 馬水 倉本研一郎

恋の日に隙間もなくチョコを詰めデコポン
一箱孫らに送る 木山 本田 龍子

息子との口論済んで本を読む私の姿に息子
ほっこり 江津 高田美佐子

里の寺納骨された義父の前手合わせ祈る子等
の安泰 広崎 日野ヒロ子

誕生日風冷たいが澄んだ空日々正淑に歳重ね
たい 惣領 新居 露子

川岸で鶯の声聞いている菜の花咲いた桜も近
い 惣領 甲斐 道夫

久しぶり夫と食べる桜餅未だ嫁かぬ娘の大好
きな色 木山 赤城 香織

投稿は、一人一首(句)でお願いします。

俳句

河野 全平 選

竹の子に猪の親子がうちの庭
四歳の孫が差し出すチョコの味
寒い朝花に隠れる紋白蝶

山波へ深呼吸する秋津川
啓蟄や背にぬくみの草むしり
マスクとりて春の電車や窓の風

らつきようを漬けて菜の花摘み出る
ドカ雪に死んだ人々悼みけり
神前に子らの拍手山笑ふ

一句鑑賞
どこからか猫きて座る梅日和
熊本市 三重野友子

赤井 増岡 伸禧
熊本市 境 眞木子

古閑 今村 恒心
宮園 米村 盛子

宮園 秋月 充博
廣崎 瀬戸サイ子

惣領 野々口トミ子
木山 本田 龍子

野々口志津子
宮園 秋月 充博

廣崎 瀬戸サイ子
古閑 今村 恒心

宮園 米村 盛子
宮園 秋月 充博

野々口志津子
木山 本田 龍子

川柳

布田川左門 選

「お題」 自由詠
甲子園と大阪場所がせめぎ合ふ
お茶の間テレビ

ニッポン総理電撃訪問ウクライナ
将棋六冠青年聡太の駒さばき
藤井そうた

国際線クマモト空港リニューアル
空 港 雀

「お題」 「自動運転」または「空とぶ自動車」
カップルがバイクに跨り富士登山
雲の恋人

雲海をヨットのよう自動車をゆく
阿蘇の雲海
自動運転「行先設定」桃源境
ノアの箱船
自動運転「ハワイ到着五分前」
音声案内

次回の「選挙権」または「その一票」
投稿は投稿者の住所、電話番号を必ず記入し、役場
広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。



益城の文化財
町文化財保護委員会

杉堂

かなふねやま こんびらぐうと
金船山の金毘羅宮と
ばとう 馬頭観音像

杉堂の村中を抜け、四賢婦人記念館を右に見ながらS字状の坂道を上ると、高遊原の台地に出ます。その右手にある小さな丘が金船山です。「ふるさと地名漫歩」によると、昔「唐の国」の船がここで転覆して丘になったことから「唐船さん」、それがなまり「金船さん」となったとされています。

金船山には「金毘羅宮」と「馬頭観音」を祭った2基の祠があります。金毘羅宮は船乗りの守護神であるとされていますが、この金毘羅宮には次のような民話があります。

天保年間、大飢饉に見舞われ餓死者が続出した。その悲惨さを憂えた当時の庄屋・吉本多治右衛門は、その年の年貢の先延ばしを郡代に願ひ出て許された。

しかし、翌年も一滴の雨も降ら